

### (3) トライアル・ツアー参加者の意識比較調査結果(「抜粋版」)

#### (内閣府実施の「都市の農山漁村の共生・対流に関する世論調査」との比較)

2007.2.20 (株)日通総合研究所 桜井

##### ・今回の調査結果を読むにあたっての留意事項

1. 年4回のトライアル・ツアー参加者数は合計で161名で、その内の事務局延人数18名を除く「高校生以上」の参加者104名にアンケートを配布した。アンケート回収数は76件である。
2. 当アンケート調査は、各トライアル・ツアーへの参加者にツアーを終えた後に配布し実施したものである。少なくとも一度は農山漁村との交流を経験したことで生まれる意識と2005年11月に行われた内閣府の「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査」結果との比較をするために実施をしたものである。

##### ・調査結果の総括

アンケートの集計結果から「都市と農山漁村の共生・対流の必要性を認知した意識の高い集団を創り上げる」点については、この社会実験企画テーマである「企業ふるさと創り」の手法が一定の成果をもたらすであろうことが想定される。

2005年11月に行われた内閣府による「都市と農産漁村の共生・対流に関する世論調査」では、「都市と農山漁村地域相互理解のために両者間での交流が必要と考える」人は79.2%(注意:世論調査からの引用数値は「都市住人」の回答分のみ記載)あり、「このような新しいライフスタイルに関心がある」人は51.2%と関心の高さは覗えるものの、「実践してみたい、または、どちらかという実践してみたい」と考える人は24.8%となり、「既実践している」人(2.3%)を加えても27.1%という数値へと減少する。つまり、都市住人の多くは「関心はあるが、実践するにはハードルが高く、一歩踏み込むには勇気が要る」と考えていることがわかる。

そこで今回の実験企画においては企業というある程度強制力の働く環境を利用し、「都市住人(=従業員)に、このような新しいライフスタイルを“まずは実践させる”ことが、彼らに共生・対流の必要性を五感で認知させ、意識の高揚をもたらし、新しいライフスタイルへの関心のみでなく、更なる実践への意欲を高騰させる」であろうことを仮説とし、春・夏・秋・冬4回のトライアル・ツアー(参加者は4回で161名。この実験企画以前に既に「新しいライフスタイル」を実践していたのは2.6%)を実施した。各回ツアー終了後に飯豊町グリーンツーリズムのメニュー改善のための「ツアー内容に関するアンケート調査」に加え、仮説検証のために、先の内閣府世論調査と同じ設問による「共生・対流に関するアンケート調査」を行った。

アンケートの結果は、「都市と農産漁村地域相互理解のために両者間での交流が必要と考える」人は98.7%(世論調査は79.2%)、「新しいライフスタイルに関心がある」人は79.5%(世論調査は51.2%)、「実践したいという願望がある」人は30.3%(世論調査は10.5%)、「どちらかという実践したいという願望がある」人は46.1%(世論調査は24.3%)、「実践する願望はない」人は5.3%(世論調査は36.4%)という数値を示しており、「一度実践すれば高い意識の醸成が可能」であることが明示されたと考えられる。

今回の取組みはあくまでも実験事業規模に止まっており、企業全体を意識の高い母集団として創り上げるためには、その一つの手段として共生と対流に向けた取組みを、実験を超えた事業戦略にまで引き上げビジネスモデル化を図ることが重要と考える。

##### ・アンケート集計結果(内閣府世論調査との比較)

(注意)・設問の項目番号は、内閣府の世論調査のそれとは若干異なる部分があります。

また、一部の設問内容および選択肢をトライアル・ツアーに合わせて変更利用しております。変更した部分は赤字にて記載します。

・グラフ上の左側の棒が当調査結果、右側の棒が内閣府世論調査の結果を示します。なお、世論調査の結果数値は都市住人分のみを使用しました。

##### Face sheet 1.性別

	選択肢	当調査結果(%)	内閣府世論調査結果
ア	男性	80.3	46.3
イ	女性	19.7	53.7

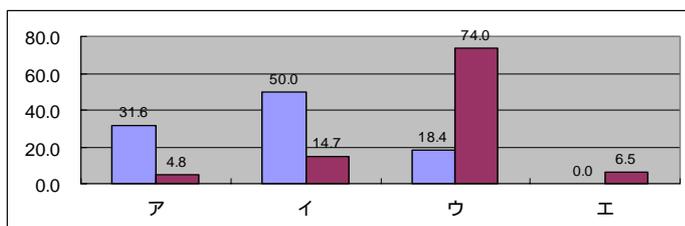
Face sheet 2 . 年齢

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	10代		
イ	20代	6.6	9.6
ウ	30代	22.4	14.8
エ	40代	50.0	15.2
オ	50代	21.1	21.6
カ	60代		20.4
キ	70代～		18.5

< 1 . 都市と農山漁村の交流について >

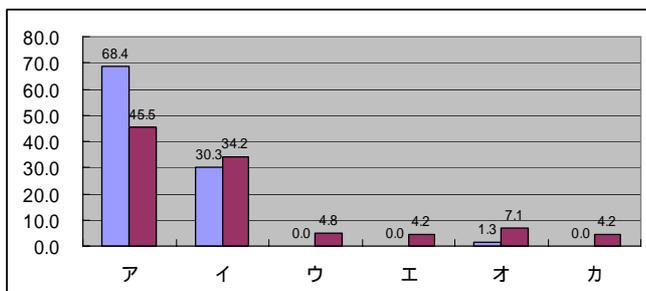
Q 1 . あなたは、「都市と農山漁村の共生・対流」という取組を知っていますか。この中から1つだけお答えください。

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	そういう取組について聞いたことがあり、取組の内容も知っている	31.6	4.8
イ	そういう取組について聞いたことがあるが、取組の内容までは知らない	50.0	14.7
ウ	そういう取組について聞いたことがない	18.4	74.0
エ	わからない		6.5



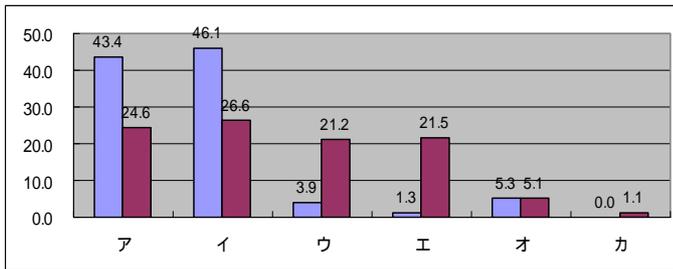
Q 2 . あなたは、都市地域と農山漁村地域間で相互に理解を深めるために、両者の間で交流を進めることが必要だと思いますか。それとも必要ないと思いますか。この中から1つだけお答えください。

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	必要である	68.4	45.5
イ	どちらかというとも必要である	30.3	34.2
ウ	どちらかというとも必要ない	0.0	4.8
エ	必要ない	0.0	4.2
オ	どちらともいえない	1.3	7.1
カ	わからない		4.2



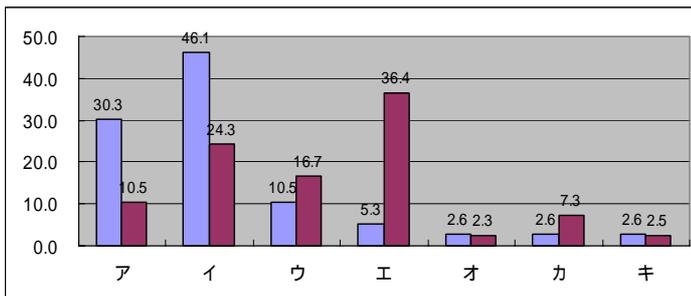
Q 3 . あなたは、このような新しいライフスタイルに関心がありますか。この中から 1 つだけお答えください。

選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア 関心がある	43.4	24.6
イ どちらかというに関心がある	46.1	26.6
ウ どちらかというに関心がない	3.9	21.2
エ 関心がない	1.3	21.5
オ どちらともいえない	5.3	5.1
カ わからない	0.0	1.1



Q 4 . あなたは、このような新しいライフスタイルを自分で実践したいという願望がありますか。この中から 1 つだけお答えください。

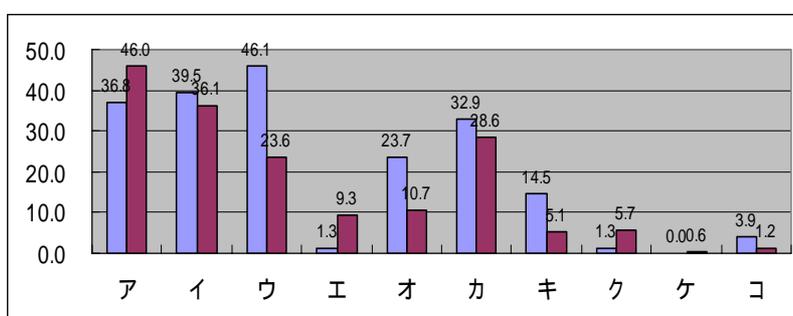
選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア ある	30.3	10.5
イ どちらかというにある	46.1	24.3
ウ どちらかというにない	10.5	16.7
エ ない	5.3	36.4
オ すでに実践している	2.6	2.3
カ どちらでもない	2.6	7.3
キ わからない	2.6	2.5



< 2 . 農山漁村への滞在・二地域居住・定住について >

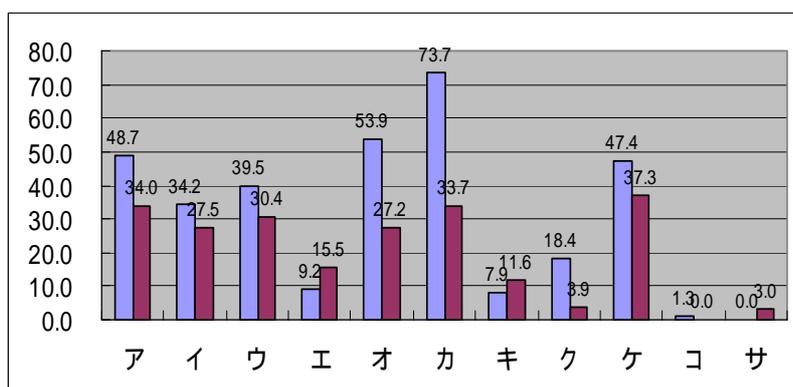
Q 5 . あなたは、農山漁村地域に一時滞在する場合、どのような施設に宿泊したいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	ホテル・旅館	36.8	46.0
イ	ペンション・民宿	39.5	36.1
ウ	農家（漁家）民宿	46.1	23.6
エ	友人・知人の住居	1.3	9.3
オ	キャンプ場	23.7	10.7
カ	公共の宿泊施設	32.9	28.6
キ	別荘	14.5	5.1
ク	滞在するつもりはない	1.3	5.7
ケ	その他		0.6
コ	わからない	3.9	1.2



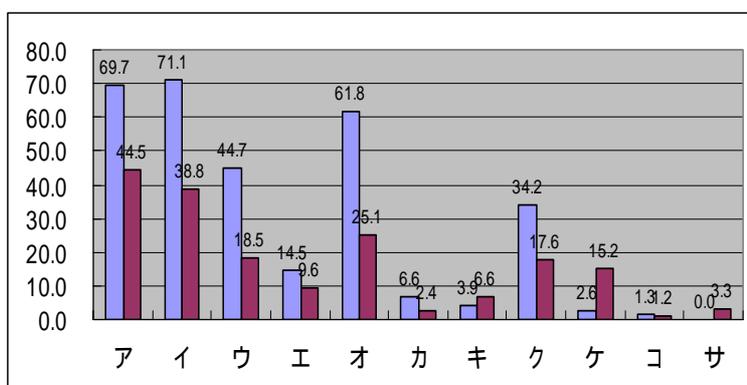
Q 7 . あなたは、農山漁村地域に滞在する場合、その場所を決めるのにどこから情報を入手したいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	旅行会社の店にあるポスター、パンフレット、案内書等	48.7	34.0
イ	テレビ、ラジオ	34.2	27.5
ウ	新聞、一般雑誌	39.5	30.4
エ	新聞の折込広告	9.2	15.5
オ	旅行雑誌、ガイドブック	53.9	27.2
カ	インターネット等の旅行情報	73.7	33.7
キ	観光案内所	7.9	11.6
ク	電車、地下鉄、バス等の中吊り広告	18.4	3.9
ケ	家族、友人、知人等の紹介（口コミ）	47.4	37.3
コ	その他	1.3	3.0
サ	わからない		3.0



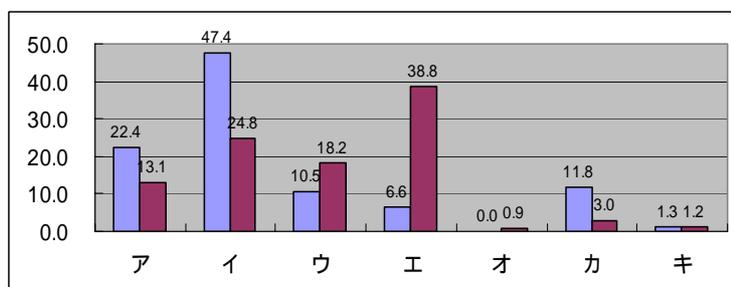
Q 8 . 一般的に考えて子どもと一緒に家族で連続 3 日以上農山漁村地域に滞在する場合の問題点は何だと思いますか。この中からいくつあげてください。

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	親と子どもの休暇が合わない	69.7	44.5
イ	親がまとまった休暇がとりにくい	71.1	38.8
ウ	子どもが学校の授業のため、まとまった休みが取りにくい	44.7	18.5
エ	子どもに部活動や習い事、地域の活動など他にさせたいことがある	14.5	9.6
オ	交通費や滞在費が高い	61.8	25.1
カ	海外など他にいきたいところや趣味やボランティアでしたいことがある	6.6	2.4
キ	行ってみたい滞在先がない	3.9	6.6
ク	農山漁村地域についての情報が少ない	34.2	17.6
ケ	特になし	2.6	15.2
コ	その他	1.3	1.2
サ	わからない		3.3



Q 9 . あなたは、平日は都市部で生活し、週末は農山漁村地域で生活するといった二地域での居住をしてみたいという願望がありますか。この中から 1 つだけお答えください。

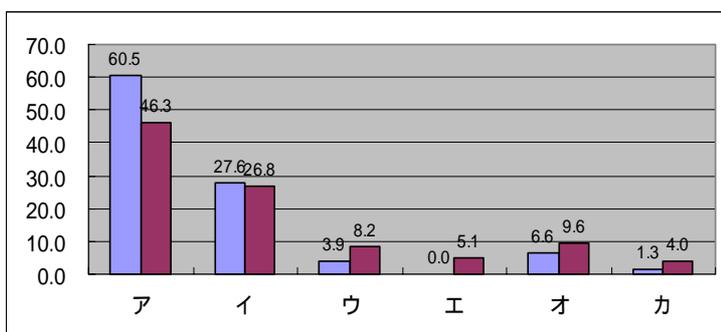
	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	ある	22.4	13.1
イ	どちらかというところ	47.7	24.8
ウ	どちらかというところない	10.5	18.2
エ	ない	6.6	38.8
オ	すでに実践している	0.0	0.9
カ	どちらともいえない	11.8	3.0
キ	わからない	1.3	1.2



< 3 . 休暇の取得について >

Q 1 6 . 「都市と農山漁村の共生・対流」のための社会実験が検討されています。これには、親のまとまった休みの取得、子ども達の夏休みの分散化、子どもと一緒にいる場合の宿泊料金を比較的安く設定するといったことが検討されています。あなたは、家族で体験旅行ができるよう、会社は従業員がまとまった休暇を取ることを奨励すべきだと思いますか。それともそうは思いませんか。この中から1つだけお答えください。

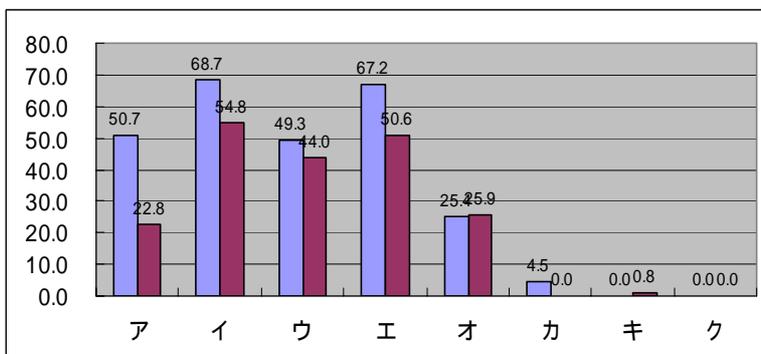
	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	奨励すべきと思う	60.5	46.3
イ	どちらかという奨励すべきと思う	27.6	26.8
ウ	どちらかという推奨すべきと思わない	3.9	8.2
エ	奨励すべきと思わない	0.0	5.1
オ	どちらともいえない	6.6	9.6
カ	わからない	1.3	4.0



( Q 1 6 で (ア)「奨励すべきと思う」または (イ)「どちらかという奨励すべきと思う」を選択した方へ

Q 1 6 a . 奨励すべきと思う理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。

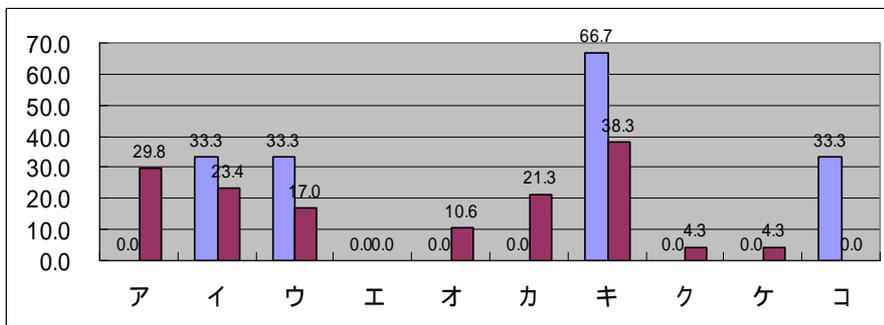
	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	従業員の計画的な休暇の取得を促進することは企業の責務	50.7	22.8
イ	従業員がリフレッシュすることで、仕事の能率も向上する	68.7	54.8
ウ	従業員と家族のつながりが深まる	49.3	44.0
エ	子どもの育成のために必要	67.2	50.6
オ	社会全体への経済効果が期待できる	25.4	25.9
カ	その他	4.5	0.0
キ	特になし	0.0	0.8
ク	わからない	0.0	0.0



(Q16で(ウ)「どちらかという奨励すべきと思わない」または(エ)「奨励すべきと思わない」を選択した方へ)

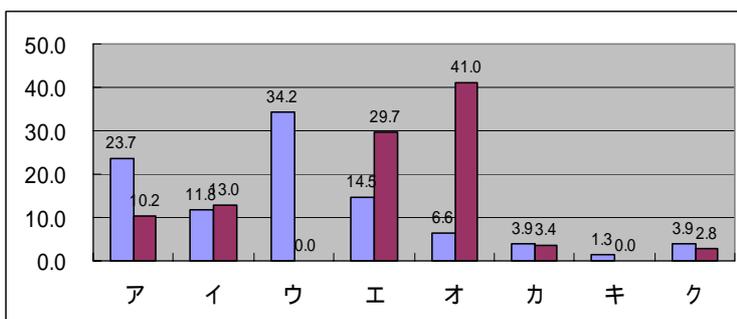
Q16b. 奨励すべきと思わない理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。

選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア 仕事が忙しすぎて休めない		29.8
イ 家族の休暇が合わせられないと思わない	33.3	23.4
ウ 休みがあっても経済的余裕がない	33.3	17.0
エ 休んでも行きたいところが特にならない		
オ 留守中に家族の世話などがあり、家を空けることができない		10.6
カ ゴールデンウィークや3連休などがあり現行の休暇で十分である		21.3
キ 家族で体験旅行をするための休暇を取得するかどうかは従業員の自由である	66.9	38.3
ク その他		4.3
ケ 特にならない		4.3
コ わからない	33.3	



Q18. 「家族で体験旅行をするために子どもを平日休ませる」ということについて、あなたの考え方に近いのはどちらですか。この中から1つだけお答えください。

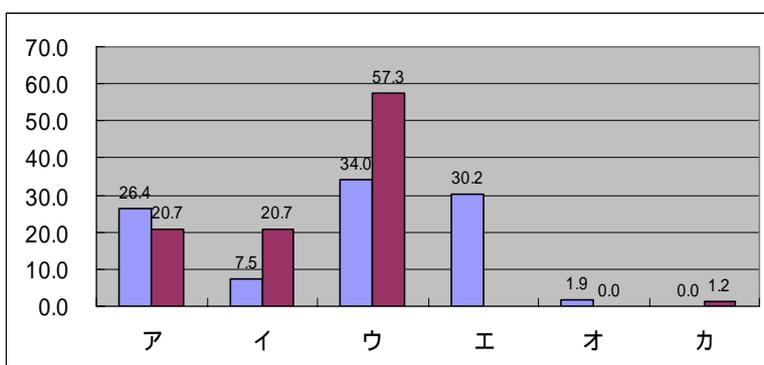
選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア 「家族で体験旅行をするために子どもを平日休ませる」という考え方に近い	23.7	10.2
イ どちらかという「家族で体験旅行をするために子どもを平日休ませる」という考え方に近い	11.8	13.0
ウ 学校が子どもの休んだ日を体験学習扱い(=出席扱い)とする措置を講じるのなら「家族で体験旅行をするために子どもを平日休ませる」という考え方に近い	34.2	
エ どちらかという「家族で体験旅行をするために学校は休ませない」という考え方に近い	14.5	29.7
オ 「家族で体験旅行をするためには学校を休ませない」という考え方に近い	6.6	41.0
カ どちらともいえない	3.9	3.4
キ その他	1.3	
ク わからない	3.9	2.8



(Q18で(ア)『家族で体験旅行をするために子どもを平日休ませる』という考え方に近い』または(イ)『どちらかという  
 と「家族で体験旅行をするために学校を平日休ませる」という考え方に近い』または(ウ)『学校が体験学習とし  
 て出席扱いするのなら「家族で体験旅行をするために子どもを平日休ませる」という考え方に近い』を選択した方へ  
 Q18 a. あなたは何日程度なら子どもを平日に休ませるという考え方ですか。この中から1つだけお答えください。

選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア 休日と併せ、1週間程度なら休ませる	26.4	20.7
イ 1日なら休ませる	7.5	20.7
ウ 2日なら休ませる	34.0	57.3
エ 3日なら休ませる	30.2	
オ その他	1.9	
カ わからない		1.2

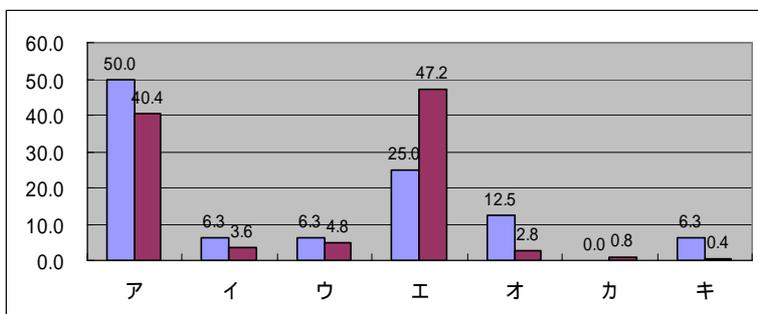
注意：世論調査の「ウ」項は「2日から3日なら休ませる」としています。



(Q18で(エ)『どちらかという「家族で体験旅行をするためには学校は休ませない」という考え方に近い』または(オ)『家族で体験旅行をするためには学校を休ませない』という考え方に近い』を選択した方へ

Q18 b. 休ませない理由は何ですか。主な理由をこの中から1つだけお答えください。

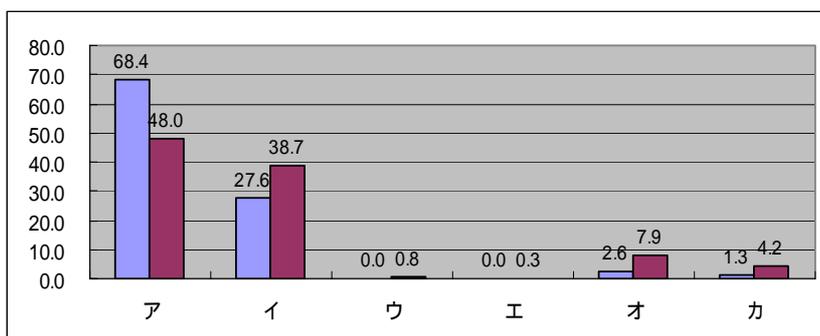
選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア 学習に影響が出るため、休ませたくない	50.0	40.4
イ 友人関係に影響が出るため、休ませたくない	6.3	3.6
ウ 学校の理解が得られないのではないかと 思う	6.3	4.8
エ 昔から学校は休まない習慣になっている	25.0	47.2
オ その他	12.5	2.8
カ 特になし	0.0	0.8
キ わからない	6.3	0.4



< 5 . 企業の社会貢献と社会的責任、および企業価値について >

Q 2 1 . 企業や事業所が農山漁村との交流や農村の活性化に協力している場合、その企業・事業所に対してどのような印象を持ちますか。この中から 1 つだけお答えください。

	選択肢	当調査結果 (%)	内閣府世論調査結果
ア	良い印象を持つ	68.4	48.0
イ	どちらかというち良い印象を持つ	27.6	38.7
ウ	どちらかというち悪い印象を持つ	0.0	0.8
エ	悪い印象を持つ	0.0	0.3
オ	どちらともいえない	2.6	7.9
カ	わからない	1.3	4.2

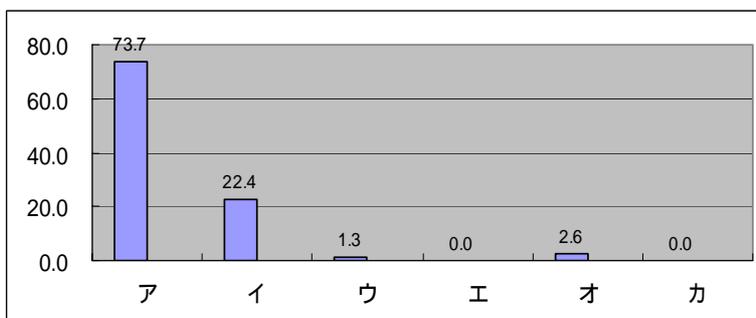


(注意：以下の設問は当調査独自のものです。世論調査の設問には存在しません。)

< C S Rと企業価値について >

Q 2 3 . 一般に社会貢献も企業の社会的責任 ( C S R ) のひとつに位置づけられています。また、一般に社会的責任を果たすことは企業価値を高めることにつながると言われますが、社会貢献も企業価値を高めることに寄与すると思えますか。

	選択肢	当調査結果 (%)	
ア	社会貢献は企業価値を高めると考える	73.7	
イ	どちらかというち社会貢献は企業価値を高めると考える	22.4	
ウ	どちらかというち社会貢献は企業価値を高めるとは考えない	1.3	
エ	社会貢献は企業価値を高めるとは考えない	0.0	
オ	どちらともいえない	2.6	
カ	わからない	0.0	



以 上